

平成 18 年度 農業生物資源研究所・遺伝資源研究会

- 遺伝資源の国際取引ルールに関する情勢 -

我が国の農業発展を支える知的基盤整備の一環として海外遺伝資源の導入・研究は重要な戦略です。その導入・研究は、前段として遺伝資源の国際取引ルール等の情勢を把握した上で相手国との交渉・相互合意を経て初めて実現します。生物多様性条約が遺伝資源に対する各国の主権的権利を認めて以来、“遺伝資源は人類共通の財産”というそれまでの認識一点張りでは国際的に通用せず、一筋縄に海外遺伝資源の導入・研究が実現できない情勢となっています。今回の研究会では、植物遺伝資源を主な対象に、数名の有識者に最新の国際情勢や事例をご紹介いただき、現場の研究者を含め今後の導入・研究のあり方・進め方を議論します。

(日時) 平成 19 年 2 月 2 日(金) 13:30 ~

(場所) 農業生物資源研究所 構造生物学研究棟付属施設(ANNEX) 2 階共用第 3 会議室

(日程)

13:30 開会

13:40 ~ 14:20 遺伝資源の利用に係わる国際制度
磯崎博司 (明治学院大学教授)

14:20 ~ 14:50 ITPGR 第 1 回締約国理事会で決まったこと
富岡啓介 (農業生物資源研究所主任研究員)

14:50 ~ 15:30 ITPGR 標準材料移転契約の内容
大川雅央 (種苗管理センター調査研究調査役)

15:30 ~ 15:50 (休憩)

15:50 ~ 16:20 パプアニューギニアにおける植物遺伝資源共同研究
- 新しく得られた遺伝資源の意義
ダンカン・ヴォーン (農業生物資源研究所上級研究員)

16:20 ~ 16:50 ミャンマーにおける遺伝資源の共同調査・収集
河瀬真琴 (農業生物資源研究所上級研究員)

16:50 ~ 17:20 総合討論

17:20 閉会

問い合わせ先: 農業生物資源研究所 富岡啓介

Tel: 029-838-7053

* 事前登録の必要はありません